

中学校 美術 水うちわ～岐阜の川文化に育まれた工芸品～



手すき和紙、豊富な竹林、長良川の鶺鴒・・・。

岐阜ならではの環境と、川文化に育まれた工芸品に、水うちわがあります。

水うちわは、明治時代、京都から岐阜に移り住んだうちわ職人によって、作り始められました。鶺鴒船に乗った客が、川に水うちわを浸し、あおいで涼むことが流行したこともあったとか。

日本人は、風鈴の音から涼を得るなど、扇風機やエアコンの無い時代にも、さまざまな工夫をして、夏を過ごしました。うちわをあおぐと、ふわりと心地よい風が頬に触れて涼しくなりますが、それだけでなく、岐阜の水うちわにはぬれたような透明感があり、視覚的にも涼しさを感じさせてくれます。

水うちわは、美濃の薄い雁皮紙(がんびし)に、美しい絵を描き、うちわの骨(竹)に一つ一つ手貼りをし、天然ニスを塗って仕上げます。

時代の変化に伴い、一時は生産が途絶えましたが、近年、様々な人の努力によって復活した水うちわ。

水うちわについて調べてみれば、きっと、岐阜の美しい工芸品に対する理解が深まり、郷土に対する愛着と誇りが感じられることでしょう。

